

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	東北電子専門学校
設置者名	学校法人 日本コンピュータ学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
専門 商業 実務 課程	総合情報ビジネス科 ビジネスキャリアコース	夜・通信	199.5	160.0	
	総合情報ビジネス科 ITビジネスコース	夜・通信	313.5	160.0	
工業 専門 課程	モバイルアプリケーション科	夜・通信	912.0	160.0	
	情報システム科	夜・通信	342.0	160.0	
	*1 AIシステムエンジニア科 (システムエンジニア科)	夜・通信	826.5	240.0	
	ネットワークシステム科	夜・通信	655.5	160.0	
	*2 サイバーセキュリティ科 (ネットワークセキュリティ科) コース制なし:1・2年生のみ在籍	夜・通信	541.5	240.0	
	*2 ネットワークセキュリティ科 ネット ワークコース:3年生が在籍	夜・通信	427.5	240.0	
	*2 ネットワークセキュリティ科 セキ ュリティコース:3年生が在籍	夜・通信	427.5	240.0	
	AIテクノロジーエンジニア科	夜・通信	598.5	240.0	
	高度ITエンジニア科	夜・通信	1111.5	320.0	
	建築科 建築工学コース	夜・通信	1567.5	160.0	
	建築科 CAD設計コース	夜・通信	1881.0	160.0	
	建築大工技能科	夜・通信	912.0	160.0	
インテリア科	夜・通信	1339.5	160.0		

	電気工事科	夜・通信	1710.0	160.0	
	機械CAD設計科	夜・通信	1254.0	160.0	
文化・ 教養専門 課程	*3 ゲームクリエイター科	夜・通信	855.0	160.0	
	*3 ゲームクリエイター科 ゲーム企画コース	夜・通信	228.0	160.0	
	*3 ゲームクリエイター科 ゲームCGコース	夜・通信	228.0	160.0	
	ゲームエンジニア科	夜・通信	1140.0	240.0	
	CGクリエイター科	夜・通信	1738.5	160.0	
	Webクリエイター科	夜・通信	1311.0	160.0	
	デジタルデザイン科	夜・通信	1482.0	160.0	
	デジタルミュージック科	夜・通信	1482.0	160.0	
	映像放送科	夜・通信	1596.0	160.0	
	音響制作科	夜・通信	1738.5	160.0	
(備考)					
*1 AIシステムエンジニア科:今年度入学生より学科名称変更 1年生:AIシステムエンジニア科 2年生:システムエンジニア科					
*2 サイバーセキュリティ科:今年度入学生より学科名称変更 1年生:サイバーセキュリティ科 2年生:ネットワークセキュリティ科:コースなし 3年生:ネットワークセキュリティ科:コース制(ネットワークコース、セキュリティコース)					
*3 ゲームクリエイター科:今年度入学生よりコース制廃止 1年生:コースなし 2年生:コース制(ゲーム企画コース、ゲームCGコース)					

## 2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

- ・ ホームページにて公表

<https://www.jc-21.ac.jp/report/shien/index.html#jitumu>

## 3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東北電子専門学校
設置者名	学校法人 日本コンピュータ学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページにて公表</li> </ul> <a href="https://www.jc-21.ac.jp/pdf/rijiimeibo_2020.pdf">https://www.jc-21.ac.jp/pdf/rijiimeibo_2020.pdf</a>
---

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	【前職】NEC東芝情報システム(株)相談役	令和元年9月28日～ 令和3年9月27日	渉外担当
非常勤	【現職】(株)JC-21 教育センター 取締役	令和元年9月28日～ 令和3年9月27日	総務担当
非常勤	【前職】宮城県漁業協同組合女川町支所長	令和元年9月28日～ 令和3年9月27日	コンプライアンス担当
非常勤	【現職】東北大学特定認定再生医療等委員会委員	令和元年9月28日～ 令和3年9月27日	広報担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東北電子専門学校
設置者名	学校法人 日本コンピュータ学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>① 教育課程編成委員会の設置</p> <p>カリキュラム(教育課程)の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。</p> <p>委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各学科の教員によりカリキュラムについて検討し、改善案を作成する。</li> <li>2. 「教育課程編成委員会」(年に2回以上開催)において、現行カリキュラム及び1.で作成した改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。</li> <li>3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2.で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</li> </ol> <p>③シラバスの作成</p> <p>決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。</li> <li>2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</li> </ol>	
授業計画書の公表方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページにて公表</li> <li><a href="https://www.jc-21.ac.jp/report/shien/index.html#syllabus">https://www.jc-21.ac.jp/report/shien/index.html#syllabus</a></li> </ul>
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物(作品)および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準として100点法で評価する。</li> <li>・100点法で評価した評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法(5~1)の評定を行う。</li> <li>・評定が2以上(建築科においては3以上)の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p><b>【学習成績、出席状況の把握】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・100点法による評価点、5段階法による評定点、総得点（評価点の合計）、平均点（総得点÷科目数）、成績順位、出席時間数、欠席時間数、出席率を記載した成績一覧表を、学科、学年、コースごとに作成し、成績不振および学習意欲が低下している生徒を把握する。</li> <li>・各科目の5段階法の評定、成績順位、出欠状況等を記載した、成績表を前期期末（10月）並びに後期期末（卒業学年：2月、進級学年：3月）に保護者宛て送付し家庭の理解や協力を求める。</li> </ul> <p><b>【成績分布状況の把握】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5段階法で評価した各科目の評定の平均値（評定平均）を求め、学科・学年・コースごとに成績分布状況表を作成する。</li> </ul>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページにて公表 <a href="https://www.jc-21.ac.jp/pdf/gpa_2020.pdf">https://www.jc-21.ac.jp/pdf/gpa_2020.pdf</a></li> </ul>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p><b>【進級認定基準】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p><b>【卒業認定基準】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページにて公表 <a href="https://www.jc-21.ac.jp/pdf/sotsugyo_2019.pdf">https://www.jc-21.ac.jp/pdf/sotsugyo_2019.pdf</a></li> </ul>

## 様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

①を用いること。

学校名	東北電子専門学校
設置者名	学校法人 日本コンピュータ学園

### 1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	・ ホームページにて公表 <a href="https://www.jc-21.ac.jp/pdf/taisyaku_2019.pdf">https://www.jc-21.ac.jp/pdf/taisyaku_2019.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	・ ホームページにて公表 <a href="https://www.jc-21.ac.jp/pdf/keisan_2019.pdf">https://www.jc-21.ac.jp/pdf/keisan_2019.pdf</a>
財産目録	・ ホームページにて公表 <a href="https://www.jc-21.ac.jp/pdf/zaisan_2019.pdf">https://www.jc-21.ac.jp/pdf/zaisan_2019.pdf</a>
事業報告書	・ ホームページにて公表 <a href="https://www.jc-21.ac.jp/pdf/jigyou_2019.pdf">https://www.jc-21.ac.jp/pdf/jigyou_2019.pdf</a>
監事による監査報告（書）	・ ホームページにて公表 <a href="https://www.jc-21.ac.jp/pdf/kansa_2019.pdf">https://www.jc-21.ac.jp/pdf/kansa_2019.pdf</a>

### 2. 教育活動に係る情報

#### ①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務専門課程	総合情報ビジネス科 ビジネスキャリアコース	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間／単位	1111.5 <small>単位時間／単位</small>	28.5 <small>単位時間／単位</small>	1111.5 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人	61 人	1 人	5 人	3 人	8 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																																							
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																																				
13 人 (100%)	0 人 (0%)	9 人 (69.2%)	4 人 (30.8%)																																				
(主な就職、業界等) 株式会社 エイブル、株式会社 アルファシステム																																							
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																																							
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和元年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報）																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日商簿記検定 3級</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>リテールマーケティング(販売士)検定 3級</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>日本語ワープロ検定 2級</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>文書デザイン検定 1級</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス実務マナー検定 3級</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>サービス接客検定 3級</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション検定 初級</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>Microsoft Office Specialist Excel</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>13人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	日商簿記検定 3級	③	13人	6人	リテールマーケティング(販売士)検定 3級	③	13人	7人	日本語ワープロ検定 2級	③	13人	6人	文書デザイン検定 1級	③	4人	4人	ビジネス実務マナー検定 3級	③	7人	5人	サービス接客検定 3級	③	3人	0人	コミュニケーション検定 初級	③	2人	2人	Microsoft Office Specialist Excel	③	13人	13人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																				
日商簿記検定 3級	③	13人	6人																																				
リテールマーケティング(販売士)検定 3級	③	13人	7人																																				
日本語ワープロ検定 2級	③	13人	6人																																				
文書デザイン検定 1級	③	4人	4人																																				
ビジネス実務マナー検定 3級	③	7人	5人																																				
サービス接客検定 3級	③	3人	0人																																				
コミュニケーション検定 初級	③	2人	2人																																				
Microsoft Office Specialist Excel	③	13人	13人																																				
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																																							
(備考) (任意記載事項)																																							

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
48 人	5 人	10.4 %
(中途退学の主な理由) 病気・学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		



分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務専門課程	総合情報ビジネス科 ITビジネスコース	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間/単位	826.5 <small>単位時間/単位</small>	28.5 <small>単位時間/単位</small>	1396.5 <small>単位時間/単位</small>	0.0 <small>単位時間/単位</small>	0.0 <small>単位時間/単位</small>
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人	38 人	0 人	5 人	3 人	8 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																																											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																																								
24 人 (100%)	1 人 (4.2%)	20 人 (83.3%)	3 人 (12.5%)																																								
(主な就職、業界等) CTCシステムマネジメント（株）、（株）日本ハウスホールディングス、 （株）しんきん総合サービス、宮城日野自動車（株）																																											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																																											
(主な学修成果（資格・検定等）) (令和元年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報)																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ITパスポート試験</td> <td>③</td> <td>24人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>日商簿記検定 3級</td> <td>③</td> <td>24人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>リテールマーケティング(販売士)検定 3級</td> <td>③</td> <td>19人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>日本語ワープロ検定 2級</td> <td>③</td> <td>22人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>文書デザイン検定 1級</td> <td>③</td> <td>24人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス実務マナー検定 3級</td> <td>③</td> <td>21人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>サービス接客検定 3級</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション検定 初級</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>Microsoft Office Specialist Excel</td> <td>③</td> <td>24人</td> <td>22人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	ITパスポート試験	③	24人	3人	日商簿記検定 3級	③	24人	6人	リテールマーケティング(販売士)検定 3級	③	19人	10人	日本語ワープロ検定 2級	③	22人	10人	文書デザイン検定 1級	③	24人	7人	ビジネス実務マナー検定 3級	③	21人	16人	サービス接客検定 3級	③	13人	9人	コミュニケーション検定 初級	③	12人	13人	Microsoft Office Specialist Excel	③	24人	22人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																								
ITパスポート試験	③	24人	3人																																								
日商簿記検定 3級	③	24人	6人																																								
リテールマーケティング(販売士)検定 3級	③	19人	10人																																								
日本語ワープロ検定 2級	③	22人	10人																																								
文書デザイン検定 1級	③	24人	7人																																								
ビジネス実務マナー検定 3級	③	21人	16人																																								
サービス接客検定 3級	③	13人	9人																																								
コミュニケーション検定 初級	③	12人	13人																																								
Microsoft Office Specialist Excel	③	24人	22人																																								
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																																											
(備考) (任意記載事項) MOS世界学生大会 日本予選入賞																																											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
44 人	3 人	6.8 %
(中途退学の主な理由) 進路変更・病気		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	モバイルアプリケーション科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間／単位	370.5 <small>単位時間／単位</small>	28.5 <small>単位時間／単位</small>	1852.5 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人	16 人	0 人	7 人	2 人	9 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。
- ・評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

#### 【進級認定基準】

- ・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

#### 【卒業認定基準】

- ・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																							
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																				
10 人 (100%)	0 人 (0%)	10 人 (100%)	0 人 (0%)																				
(主な就職、業界等) トランスコスモス(株)、株式会社 デジタルトラスト、株式会社 ダイレクトウェイヴ、IT系企業																							
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																							
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和元年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報）																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Javaプログラミング能力認定試験 3級</td> <td>③</td> <td>10人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>6人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>情報検定 情報活用試験 1級</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定ジョブパス3級</td> <td>③</td> <td>10人</td> <td>9人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	Javaプログラミング能力認定試験 3級	③	10人	8人	基本情報技術者試験	②	6人	3人	情報検定 情報活用試験 1級	③	6人	4人	ビジネス能力検定ジョブパス3級	③	10人	9人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																				
Javaプログラミング能力認定試験 3級	③	10人	8人																				
基本情報技術者試験	②	6人	3人																				
情報検定 情報活用試験 1級	③	6人	4人																				
ビジネス能力検定ジョブパス3級	③	10人	9人																				
<b>【種別】</b> ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																							
(備考) (任意記載事項)																							

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
17 人	1 人	5.9 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	情報システム科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2166.0 単位時間／単位	1395.5 単位時間／単位	114.0 単位時間／単位	1026.0 単位時間／単位		
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
180 人	182 人	0 人	4 人	1 人	5 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
70 人 (100%)	2 人 (2.9%)	65 人 (92.9%)	3 人 (4.3%)
(主な就職、業界等) サイバーコム株式会社 株式会社シー・エス・イー 東北インフォメーション・システムズ株式会社			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報）			
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
基本情報技術者試験	②	39人	24人
情報セキュリティマネジメント試験	②	11人	0人
応用情報技術者試験	②	17人	5人
ITパスポート試験	②	44人	18人
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
159 人	9 人	5.7 %
(中途退学の主な理由) 学業不振、学校生活不適應、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	A I システムエンジニア科 (システムエンジニア科)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	3192.0  単位時間/単位	2907.0 <small>単位時間/単位</small>	28.5 <small>単位時間/単位</small>	1425.0 <small>単位時間/単位</small>	0.0 <small>単位時間/単位</small>	0.0 <small>単位時間/単位</small>
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120 人	115 人	1 人	3 人	2 人	5 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

(概要)

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

(概要)

- ・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。
- ・評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

(概要)

#### 【進級認定基準】

- ・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

#### 【卒業認定基準】

- ・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。

### 学修支援等

(概要)

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																																			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																																
35 人 (100%)	0 人 (0%)	33 人 (94.3%)	2 人 (5.7%)																																
(主な就職、業界等) 東北インフォメーション・システムズ株式会社、株式会社東北システムズ・サポート、サイバーコム株式会社																																			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																																			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報）																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ITパスポート試験</td> <td>②</td> <td>12</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>27</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>応用情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>11</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>データベーススペシャリスト試験</td> <td>②</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>情報処理安全確保支援士試験</td> <td>②</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>SEA/J 基礎コース試験</td> <td>③</td> <td>11</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>Javaプログラミング能力認定試験 2級</td> <td>③</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	ITパスポート試験	②	12	4	基本情報技術者試験	②	27	11	応用情報技術者試験	②	11	4	データベーススペシャリスト試験	②	3	1	情報処理安全確保支援士試験	②	4	2	SEA/J 基礎コース試験	③	11	2	Javaプログラミング能力認定試験 2級	③	4	2
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																
ITパスポート試験	②	12	4																																
基本情報技術者試験	②	27	11																																
応用情報技術者試験	②	11	4																																
データベーススペシャリスト試験	②	3	1																																
情報処理安全確保支援士試験	②	4	2																																
SEA/J 基礎コース試験	③	11	2																																
Javaプログラミング能力認定試験 2級	③	4	2																																
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）																																			
(備考) (任意記載事項)																																			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
116 人	6 人	5.2 %
(中途退学の主な理由) 学業不振、就職、病気		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		



分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	ネットワークシステム科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2166.0  単位時間／単位	912.0 <small>単位時間／単位</small>	28.5 <small>単位時間／単位</small>	1425.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人	32 人	0 人	8 人	0 人	8 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																
11 人 (100%)	0 人 (0%)	11 人 (100%)	0 人 (0%)																
(主な就職、業界等) 株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー、サイバーコム株式会社等、ネットワーク運用・管理を行う企業。																			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和元年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報）																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>5人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>ITパスポート試験</td> <td>②</td> <td>7人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>CompTIA IT Fundamentals</td> <td>③</td> <td>11人</td> <td>7人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	基本情報技術者試験	②	5人	2人	ITパスポート試験	②	7人	4人	CompTIA IT Fundamentals	③	11人	7人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
基本情報技術者試験	②	5人	2人																
ITパスポート試験	②	7人	4人																
CompTIA IT Fundamentals	③	11人	7人																
<b>【種別】</b> ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）																			
(備考) (任意記載事項)																			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
30 人	2 人	6.7 %
(中途退学の主な理由) 病気 勉強意欲低下		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	サイバーセキュリティ科 (ネットワークセキュリティ科) 1・2年生在籍	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	3192.0  単位時間／単位	2080.5 <small>単位時間／単位</small>	28.5 <small>単位時間／単位</small>	1795.5 <small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人	41 人	0 人	3 人	5 人	8 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>・評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
在籍は1・2年生のみ （ %）	人 （ %）	人 （ %）	人 （ %）
（主な就職、業界等） 在籍は1・2年生のみ。就職実績なし。			
（就職指導内容） 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 在籍は1・2年生のみ 令和元年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報は、「ネットワークセキュリティ科 ネットワークコース」及び「ネットワークセキュリティ科 セキュリティコース」を参照のこと			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22 人	0 人	0.0 %
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	ネットワークセキュリティ科 ネットワークコース 3年生在籍	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	3192.0  単位時間／単位	2052.0 <small>単位時間／単位</small>	114.0 <small>単位時間／単位</small>	1738.5 <small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20 人	12 人	1 人	3 人	5 人	8 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
20 人 (100%)	人 ( %)	19 人 (95%)	1 人 (5%)
(主な就職、業界等) CTCシステムマネジメント株式会社、株式会社IIJエンジニアリング			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報）			
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
情報セキュリティマネジメント試験	②	3人	1人
基本情報技術者試験	②	6人	2人
応用情報技術者試験	②	2人	2人
情報処理安全確保支援士試験	②	2人	2人
ネットワークスペシャリスト試験	②	2人	2人
SEA/J 基礎コース試験	③	6人	3人
SEA/J 応用テクニカル試験	③	1人	1人
CCENT	③	3人	3人
CCNA Routing and Switching	③	2人	2人
CompTIA IT Fundamentals	③	5人	5人
CompTIA Cloud Essentials	③	5人	3人
CompTIA Security+	③	2人	2人
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
18 人	0 人	0.0 %
(中途退学の主な理由) 病気、学校生活不適應、学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	ネットワークセキュリティ科 セキュリティコース 3年生在籍	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	3192.0  単位時間／単位	2052.0 <small>単位時間／単位</small>	114.0 <small>単位時間／単位</small>	1738.5 <small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20 人	15 人	0 人	3 人	5 人	8 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
20 人 (100%)	人 ( %)	19 人 (95%)	1 人 (5%)
(主な就職、業界等) 東北インフォメーション・システムズ株式会社, 株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報）			
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数
情報セキュリティマネジメント試験	②	6人	6人
基本情報技術者試験	②	14人	7人
応用情報技術者試験	②	6人	2人
情報処理安全確保支援士試験	②	8人	2人
ネットワークスペシャリスト試験	②	3人	1人
CCNA Routing and Switching	③	1人	1人
SEA/J 基礎コース試験	③	14人	11人
SEA/J 応用コース マネジメント試験	③	12人	9人
SEA/J 応用コース テクニカル試験	③	11人	2人
CompTIA Security+	③	2人	2人
<b>【種別】</b> ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
20 人	0 人	0.0 %
(中途退学の主な理由) 病気、学校生活不適應、学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		



分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	AIテクノロジーエンジニア科 1・2年生在籍	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	3192.0  単位時間／単位	2365.5 <small>単位時間／単位</small>	28.5 <small>単位時間／単位</small>	997.5 <small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人	26 人	0 人	6 人	5 人	11 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。
- ・評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

#### 【進級認定基準】

- ・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

#### 【卒業認定基準】

- ・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他								
1 人 ( 100 %)	0 人 (0%)	0 人 ( %)	1 人 (100 %)								
(主な就職、業界等)											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。											
(主な学修成果（資格・検定等）) (令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報)											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>画像処理エンジニア検定 エキスパート または ベーシック</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	画像処理エンジニア検定 エキスパート または ベーシック	③	1人	1人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数								
画像処理エンジニア検定 エキスパート または ベーシック	③	1人	1人								
<p>【種別】</p> <p>①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの</p> <p>②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの</p> <p>③その他(民間検定等)</p>											
(備考) (任意記載事項)											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
15 人	1 人	6.7 %
(中途退学の主な理由) 学業不振、その他		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	高度ITエンジニア科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼間	4218.0  単位時間／単位	2935.5 <small>単位時間／単位</small>	85.5 <small>単位時間／単位</small>	2308.5 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120 人	84 人	0 人	5 人	3 人	8 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																							
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																				
6 人 (100%)	0 人 (0%)	6 人 (100%)	0 人 (0%)																				
(主な就職、業界等) 東北インフォメーション・システムズ株式会社、サイバーコム株式会社、IT関連企業																							
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																							
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報）																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ITパスポート試験</td> <td>②</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>情報セキュリティマネジメント試験</td> <td>②</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>応用情報技術者試験</td> <td>②</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	ITパスポート試験	②	1	1	情報セキュリティマネジメント試験	②	3	2	基本情報技術者試験	②	3	1	応用情報技術者試験	②	1	1
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																				
ITパスポート試験	②	1	1																				
情報セキュリティマネジメント試験	②	3	2																				
基本情報技術者試験	②	3	1																				
応用情報技術者試験	②	1	1																				
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																							
(備考) (任意記載事項)																							

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
65 人	5 人	7.7 %
(中途退学の主な理由) 経済的理由、転学		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	建築科 建築工学コース	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間／単位	1083.0 <small>単位時間／単位</small>	313.5 <small>単位時間／単位</small>	1083.0 <small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	27 人	0 人	5 人	6 人	11 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。
- ・評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。
- ・評定が3以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

#### 【進級認定基準】

- ・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

#### 【卒業認定基準】

- ・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他								
15 人 (100%)	0 人 (0%)	13 人 (86.7%)	2 人 (13.3%)								
(主な就職、業界等) 住友不動産株式会社、カメイ株式会社、桂積算株式会社、株式会社平野組等建設業界											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。											
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報）											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2級建築施工管理検定</td> <td>②</td> <td>15</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	2級建築施工管理検定	②	15	3
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数								
2級建築施工管理検定	②	15	3								
<b>【種別】</b> ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）											
(備考)（任意記載事項） 一般社団法人宮城県建築士事務所協会主催みやぎ建築未来賞（競技設計）大賞受賞											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
27 人	2 人	7.4 %
(中途退学の主な理由) 病気、学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	建築科 CAD設計コース	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間／単位	1054.5 <small>単位時間／単位</small>	28.5 <small>単位時間／単位</small>	1396.5 <small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	33 人	2 人	5 人	6 人	11 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。
- ・評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。
- ・評定が3以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

#### 【進級認定基準】

- ・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

#### 【卒業認定基準】

- ・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他								
5 人 (100%)	0 人 (0%)	4 人 (80%)	1 人 (20%)								
(主な就職、業界等) カメイ株式会社、株式会社グリーンハウザー等建設業界											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。											
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報）											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2級建築施工管理検定</td> <td>②</td> <td>5</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	2級建築施工管理検定	②	5	0
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数								
2級建築施工管理検定	②	5	0								
<b>【種別】</b> ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)											
(備考) (任意記載事項)											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
20 人	1 人	5.0 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		



分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	建築大工技能科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間／単位	684.0 <small>単位時間／単位</small>	28.5 <small>単位時間／単位</small>	1539.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	17 人	0 人	4 人	5 人	9 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他												
4 人 (100%)	0 人 (0%)	4 人 (100%)	0 人 (0%)												
(主な就職、業界等) 株式会社 仙北建設、 錦エステート 株式会社、 丸三商事 株式会社、 高橋建総 等															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。															
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報）															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>丸のこ等取扱作業従事者安全衛生教育修了</td> <td>①</td> <td>15</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>玉掛技能講習修了</td> <td>①</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	丸のこ等取扱作業従事者安全衛生教育修了	①	15	15	玉掛技能講習修了	①	4	4
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数												
丸のこ等取扱作業従事者安全衛生教育修了	①	15	15												
玉掛技能講習修了	①	4	4												
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）															
(備考) (任意記載事項)															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
15 人	0 人	0.0 %
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	インテリア科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間／単位	798.0 <small>単位時間／単位</small>	313.5 <small>単位時間／単位</small>	1140.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	30 人	0 人	3 人	9 人	12 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。
- ・評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

#### 【進級認定基準】

- ・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

#### 【卒業認定基準】

- ・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																												
10 人 (100%)	0 人 (0%)	7 人 (70%)	3 人 (30%)																												
(主な就職、業界等) 奥羽木工所、タカカツ、秀光ビルド、住友不動産、YKKAP東北製造所 等																															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																															
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和元年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報）																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2級リビングスタイリスト</td> <td>③</td> <td>11人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>福祉住環境コーディネーター検定試験3級</td> <td>③</td> <td>10人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>福祉住環境コーディネーター検定試験2級</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>カラーコーディネーター試験3級</td> <td>③</td> <td>10人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>2次元CAD利用技術者試験基礎</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>2級インテリア設計士</td> <td>③</td> <td>5人</td> <td>2人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	2級リビングスタイリスト	③	11人	8人	福祉住環境コーディネーター検定試験3級	③	10人	5人	福祉住環境コーディネーター検定試験2級	③	2人	1人	カラーコーディネーター試験3級	③	10人	4人	2次元CAD利用技術者試験基礎	③	9人	4人	2級インテリア設計士	③	5人	2人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																												
2級リビングスタイリスト	③	11人	8人																												
福祉住環境コーディネーター検定試験3級	③	10人	5人																												
福祉住環境コーディネーター検定試験2級	③	2人	1人																												
カラーコーディネーター試験3級	③	10人	4人																												
2次元CAD利用技術者試験基礎	③	9人	4人																												
2級インテリア設計士	③	5人	2人																												
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）																															
(備考)（任意記載事項）																															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
30 人	5 人	17.2 %
(中途退学の主な理由) 病気、学校生活不適合、進路変更 ※年度当初在学者数には年度途中他学科への転籍者1名を含むため、退学率は5/29で計上		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	電気工事科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間／単位	997.5 <small>単位時間／単位</small>	28.5 <small>単位時間／単位</small>	1225.5 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人	51 人	0 人	1 人	5 人	6 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他												
32 人 (100%)	0 人 (0%)	31 人 (96.9%)	1 人 (3.1%)												
(主な就職、業界等) 日本電設工業株式会社、日本リーテック株式会社、株式会社ユアテック、東京地下鉄株式会社他、株式会社サンテック他															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。															
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和元年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報）															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第一種電気工事士</td> <td>②</td> <td>32</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>2級電気工事施工管理技術検定</td> <td>②</td> <td>31</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	第一種電気工事士	②	32	29	2級電気工事施工管理技術検定	②	31	14
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数												
第一種電気工事士	②	32	29												
2級電気工事施工管理技術検定	②	31	14												
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）															
(備考)（任意記載事項）															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
65 人	3 人	4.6 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	機械CAD設計科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間／単位	883.5 <small>単位時間／単位</small>	85.5 <small>単位時間／単位</small>	1282.5 <small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	22 人	2 人	4 人	4 人	8 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																								
14 人 (100%)	0 人 (0%)	13 人 (92.9%)	1 人 (7.1%)																								
(主な就職、業界等) 株式会社テクノプロ・デザイン社、日本ファインセラミックス株式会社、機械設計関連企業																											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																											
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報）																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2次元CAD利用技術者試験2級</td> <td>③</td> <td>14</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>2次元CAD利用技術者試験1級(機械)</td> <td>③</td> <td>8</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>CGクリエイター検定ベーシック</td> <td>③</td> <td>14</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>Microsoft Office Specialist Excel</td> <td>③</td> <td>14</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>Microsoft Office Specialist PowerPoint</td> <td>③</td> <td>14</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	2次元CAD利用技術者試験2級	③	14	8	2次元CAD利用技術者試験1級(機械)	③	8	6	CGクリエイター検定ベーシック	③	14	6	Microsoft Office Specialist Excel	③	14	14	Microsoft Office Specialist PowerPoint	③	14	14
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
2次元CAD利用技術者試験2級	③	14	8																								
2次元CAD利用技術者試験1級(機械)	③	8	6																								
CGクリエイター検定ベーシック	③	14	6																								
Microsoft Office Specialist Excel	③	14	14																								
Microsoft Office Specialist PowerPoint	③	14	14																								
<b>【種別】</b> ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																											
(備考) (任意記載事項)																											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
21 人	0 人	0.0 %
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		



分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	ゲームクリエイター科 1年生在籍	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間／単位	798.0 <small>単位時間／単位</small>	28.5 <small>単位時間／単位</small>	1938.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
50 人	40 人	0 人	5 人	7 人	12 人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。
- ・評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

#### 【進級認定基準】

- ・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

#### 【卒業認定基準】

- ・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
在籍は1年生のみ （ %）	人 （ %）	人 （ %）	人 （ %）
（主な就職、業界等） 在籍は1年生のみ。就職実績なし。			
（就職指導内容） 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 在籍は1年生のみ 令和元年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報は、「ゲームクリエイター科 ゲーム企画コース」及び「ゲームクリエイター科 ゲームCGコース」を参照のこと			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	3 人	%
（中途退学の主な理由） 前年度の在籍なし		
（中退防止・中退者支援のための取組） 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	ゲームクリエイター科 ゲーム企画コース 2年生在籍	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間/単位	798.0 単位時間/単位	28.5 単位時間/単位	1938.0 単位時間/単位	0.0 単位時間/単位	0.0 単位時間/単位
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
30 人	14 人	0 人	5 人	7 人	12 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
11 人 (100%)	0 人 (0%)	9 人 (81.8%)	2 人 (18.2%)
(主な就職、業界等) 株式会社 サン・コンピュータ、株式会社ケイ・ブックス、バレットグループ株式会社			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報）			
	資格・検定名	種別	受験者数 合格者数
	CGエンジニア検定 ベーシック	③	11人 10人
	色彩士検定3級	③	11人 10人
<b>【種別】</b> ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
28 人	3 人	10.7 %
(中途退学の主な理由) 転学、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	ゲームクリエイター科 ゲームCGコース 2年生在籍	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間/単位	741.0 単位時間/単位	28.5 単位時間/単位	1995.0 単位時間/単位	0.0 単位時間/単位	0.0 単位時間/単位
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20 人	12 人	1 人	4 人	7 人	11 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他												
14 人 (100%)	0 人 (0%)	13 人 (92.9%)	1 人 (7.1%)												
(主な就職、業界等) 日本郵政株式会社、株式会社スタジオフェイク、グローアップ株式会社															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。															
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報）															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CGクリエイター検定 ベーシック</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>色彩士検定3級</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>14人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	CGクリエイター検定 ベーシック	③	13人	11人	色彩士検定3級	③	15人	14人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数												
CGクリエイター検定 ベーシック	③	13人	11人												
色彩士検定3級	③	15人	14人												
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）															
(備考) (任意記載事項)															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
28 人	2 人	7.1 %
(中途退学の主な理由) 学校生活不適應、学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	ゲームエンジニア科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	3078.0  単位時間／単位	627.0 <small>単位時間／単位</small>	28.5 <small>単位時間／単位</small>	2622.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>	0.0 <small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
150 人	136 人	0 人	5 人	4 人	9 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																							
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																				
28 人 (100%)	0 人 (0%)	26 人 (92.9%)	2 人 (7.1%)																				
(主な就職、業界等) 株式会社カプコン、株式会社トーセ、株式会社六面堂、株式会社フォーネクスト 他IT業界等																							
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																							
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和元年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報）																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CGエンジニア検定 ベーシック</td> <td>③</td> <td>28</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>③</td> <td>5</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>C言語プログラミング能力認定試験 3級</td> <td>③</td> <td>28</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>Javaプログラミング能力認定試験 3級</td> <td>③</td> <td>10</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	CGエンジニア検定 ベーシック	③	28	24	基本情報技術者試験	③	5	1	C言語プログラミング能力認定試験 3級	③	28	6	Javaプログラミング能力認定試験 3級	③	10	6
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																				
CGエンジニア検定 ベーシック	③	28	24																				
基本情報技術者試験	③	5	1																				
C言語プログラミング能力認定試験 3級	③	28	6																				
Javaプログラミング能力認定試験 3級	③	10	6																				
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）																							
(備考) (任意記載事項)																							

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
140 人	13 人	9.3 %
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振、学校生活不適應、経済的理由、病気		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		



分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	CGクリエイター科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間／単位	456.0 <small>単位時間／単位</small>	256.5 <small>単位時間／単位</small>	1539.0 <small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80 人	75 人	0 人	2 人	4 人	6 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他								
30 人 (100%)	0 人 (0%)	29 人 (96.7%)	1 人 (3.3%)								
(主な就職、業界等) 株式会社白組、株式会社グラフィニカ、株式会社D・A・G											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。											
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報）											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CGクリエイター検定ベーシック</td> <td>③</td> <td>30人</td> <td>26人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	CGクリエイター検定ベーシック	③	30人	26人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数								
CGクリエイター検定ベーシック	③	30人	26人								
<b>【種別】</b> ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)											
(備考)（任意記載事項） リコージャパン株式会社共催デジタルサイネージコンテストグランプリ、入賞受賞。「チャリティー年賀状デザインコンテスト2019」1名入選。CG作成した学生1名を宮城テレビが取材。											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
79 人	11 人	13.9 %
(中途退学の主な理由) 学業不振、転学、就職		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	Webクリエイター科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0 単位時間／単位	427.5 単位時間／単位	171.0 単位時間／単位	1653.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位	0.0 単位時間／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		46 人	0 人	3 人	4 人	7 人	

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。
- ・評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

#### 【進級認定基準】

- ・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

#### 【卒業認定基準】

- ・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																												
10 人 (100%)	0 人 (0%)	10 人 (100%)	0 人 (0%)																												
(主な就職、業界等) 株式会社ベルーナ 株式会社メンバーズ 株式会社メンバーズキャリア 等、Web・デザイン関連企業																															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																															
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報）																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Webデザイナー検定 ベーシック</td> <td>③</td> <td>10人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>Webデザイナー検定 エキスパート</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>マルチメディア検定 ベーシック</td> <td>③</td> <td>10人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>色彩士検定 3級</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>情報検定 情報活用試験 2級</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定ジョブパス 3級</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	Webデザイナー検定 ベーシック	③	10人	9人	Webデザイナー検定 エキスパート	③	8人	2人	マルチメディア検定 ベーシック	③	10人	9人	色彩士検定 3級	③	9人	8人	情報検定 情報活用試験 2級	③	9人	6人	ビジネス能力検定ジョブパス 3級	③	9人	9人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																												
Webデザイナー検定 ベーシック	③	10人	9人																												
Webデザイナー検定 エキスパート	③	8人	2人																												
マルチメディア検定 ベーシック	③	10人	9人																												
色彩士検定 3級	③	9人	8人																												
情報検定 情報活用試験 2級	③	9人	6人																												
ビジネス能力検定ジョブパス 3級	③	9人	9人																												
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																															
(備考) (任意記載事項)																															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
31 人	1 人	3.2 %
(中途退学の主な理由) 学生生活不適應		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	デジタルデザイン科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間／単位	142.5	142.5	1966.5	0.0	0.0
			単位時間／単位	単位時間／単位	単位時間／単位	単位時間／単位	単位時間／単位
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人		21 人	0 人	3 人	4 人	7 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																																			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																																
13 人 (100%)	0 人 (0%)	10 人 (76.9%)	3 人 (23.1%)																																
(主な就職、業界等) 株式会社トーユー、株式会社豊栄堂印刷所、株式会社アルグラフ、六三ビジネスフォーム株式会社、株式会社国井印刷																																			
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																																			
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報）																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Webデザイナー検定ベーシック</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>CGクリエイター検定ベーシック</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>色彩士検定</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>DTP検定ディレクション</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>アドビ認定アソシエイト Illustrator CC</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>アドビ認定アソシエイト Photoshop CC</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス能力検定ジョブパス3級</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>13人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	Webデザイナー検定ベーシック	③	13人	12人	CGクリエイター検定ベーシック	③	13人	10人	色彩士検定	③	12人	10人	DTP検定ディレクション	③	12人	7人	アドビ認定アソシエイト Illustrator CC	③	9人	8人	アドビ認定アソシエイト Photoshop CC	③	3人	1人	ビジネス能力検定ジョブパス3級	③	13人	13人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																
Webデザイナー検定ベーシック	③	13人	12人																																
CGクリエイター検定ベーシック	③	13人	10人																																
色彩士検定	③	12人	10人																																
DTP検定ディレクション	③	12人	7人																																
アドビ認定アソシエイト Illustrator CC	③	9人	8人																																
アドビ認定アソシエイト Photoshop CC	③	3人	1人																																
ビジネス能力検定ジョブパス3級	③	13人	13人																																
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）																																			
(備考)（任意記載事項） 一般社団法人 東北映像製作社協会「映像コンテスト」応募リーフレットデザイン																																			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
21 人	0 人	0.0 %
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	デジタルミュージック科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2052.0  単位時間／単位	541.5 <small>単位時間／単位</small>	28.5 <small>単位時間／単位</small>	1681.5 <small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>	<small>単位時間／単位</small>
			単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60 人	43 人	0 人	1 人	5 人	6 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>①教育課程編成委員会の設置 カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。 委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。</p> <p>②カリキュラムの編成から決定までの流れ 1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。 2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。 3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。</p> <p>③シラバスの作成 決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。</p> <p>④シラバスの更新・公開 1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。 2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。</li> <li>・評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。</li> <li>・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>【進級認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。</li> </ul> <p>【卒業認定基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。</li> <li>・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。</li> <li>・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。</li> <li>・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。</li> <li>・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）																							
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他																				
17 人 (100%)	0 人 (0%)	8 人 (47.1%)	9 人 (52.9%)																				
(主な就職、業界等) サウンドスタジオNOAH 株式会社メディアCoCo 株式会社ヤマダ電機 株式会社ヨドバシカメラ																							
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。																							
(主な学修成果（資格・検定等）) (令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報)																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>MIDI検定3級</td> <td>③</td> <td>23人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>舞台機構調整技能士3級</td> <td>②</td> <td>17人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>マルチメディア検定 ベーシック</td> <td>③</td> <td>22人</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>サウンドレコーディング技術認定試験</td> <td>③</td> <td>16人</td> <td>16人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	MIDI検定3級	③	23人	18人	舞台機構調整技能士3級	②	17人	10人	マルチメディア検定 ベーシック	③	22人	15人	サウンドレコーディング技術認定試験	③	16人	16人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																				
MIDI検定3級	③	23人	18人																				
舞台機構調整技能士3級	②	17人	10人																				
マルチメディア検定 ベーシック	③	22人	15人																				
サウンドレコーディング技術認定試験	③	16人	16人																				
<b>【種別】</b> ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等）																							
(備考) (任意記載事項)																							

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
41 人	3 人	7.3 %
(中途退学の主な理由) 病気、就職		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		



分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養専門課程	映像放送科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2052.0 単位時間/単位	1026.0 単位時間/単位	85.5 単位時間/単位	1140.0 単位時間/単位	0.0 単位時間/単位	0.0 単位時間/単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		36人	0人	1人	10人	11人	

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

#### （概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

#### （概要）

- ・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。
- ・評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

#### （概要）

#### 【進級認定基準】

- ・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

#### 【卒業認定基準】

- ・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。

### 学修支援等

#### （概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）											
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他								
14 人 (100%)	0 人 (0%)	13 人 (92.9%)	0 人 (0%)								
(主な就職、業界等) 株式会社テレモアドットコム、株式会社トラストネットワーク、株式会社富士工芸社、厨子王株式会社											
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。											
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報）											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>映像音響処理技術者(初級)</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>8人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	映像音響処理技術者(初級)	③	15人	8人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数								
映像音響処理技術者(初級)	③	15人	8人								
【種別】 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)											
(備考) (任意記載事項)											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
31 人	1 人	3.1 %
(中途退学の主な理由) 経済的理由 ※年度当初在学者数には年度途中他学科からの転籍者1名を含まないため、退学率は1/32で計上		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養専門課程	音響制作科	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2052.0 単位時間/単位	826.5 単位時間/単位	85.5 単位時間/単位	1339.5 単位時間/単位	0.0 単位時間/単位	0.0 単位時間/単位
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	18人	0人	1人	8人	9人		

### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

#### ①教育課程編成委員会の設置

カリキュラム（教育課程）の編成においては、各専門分野について知見のある企業、業界団体などが委員として参画する「教育課程編成委員会」を設置し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するための教育課程の編成について組織的に取り組み、実践的職業教育の質を確保する。

委員会では、業界の人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、今後必要となる知識や技術などを分析し、実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業方法の改善の提案を行い、企業等の要請を十分に生かした教育課程の編成に資する。

#### ②カリキュラムの編成から決定までの流れ

1. 本科教員により、カリキュラムについて検討し、改善案を作成する。
2. 「教育課程編成委員会」（年に2回以上開催）において、現行カリキュラム及び本科からの改善案について、専門的、実践的な見地から検討し、新カリキュラムに必要な授業科目の開設や授業方法の改善等の提案を行う。
3. 校長、教務部長、教務課長により編成される学内カリキュラム委員会において、2. で提案された内容を含めて総合的に検討し、カリキュラムを決定する。

#### ③シラバスの作成

決定したカリキュラムから、科目ごとに「教育目的」「授業内容」「到達目標」「取得目標資格」「授業計画」「成績評価の方法」等を記載したシラバスを作成する。

#### ④シラバスの更新・公開

1. 次年度分のシラバスは年度末まで、学科学年ごとに作成する。
2. シラバスはPDF化し、インターネットにて公表する。

### 成績評価の基準・方法

（概要）

- ・各科目の評価は、定期試験、レポート、課題制作物（作品）および授業に取り組む姿勢をもとに、シラバスに記載されている「成績評価の方法」を基準に100点法で評価する（評価点）。
- ・評価点をもとに、教務内規で規定した基準で5段階法（5～1）の評定を行う。
- ・評定が2以上の科目を合格とし、それ以外は不合格とする。

### 卒業・進級の認定基準

（概要）

#### 【進級認定基準】

- ・年間800時間以上履修しており、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年3月中旬に開催する進級認定会議において進級認定されていること。

#### 【卒業認定基準】

- ・2年課程は1,700時間以上、3年課程は2,400時間以上、4年課程は3,600時間以上履修していること、かつ履修すべき全科目の評定が合格していること。
- ・毎年2月中旬に開催する卒業認定会議において卒業認定されていること。

### 学修支援等

（概要）

- ・自ら学ぶ意欲のある生徒を支援するため、メディアセンター及びライセンスサポートセンター（自習環境）を整備し、利用促進を行う。
- ・課題制作、自主作品制作のため、課外に実習室等を解放する。
- ・成績不振の生徒に対して補修授業を実施する。
- ・長期欠席等の生徒に対して担任と学生サポート室が連携して、電話・メールでの連絡、個人面談、カウンセリング、自宅訪問、保護者を交えた面談等を実施する。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）															
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他												
14 人 (100%)	0 人 (0%)	13 人 (92.9%)	人 (%)												
(主な就職、業界等) 株式会社響映、株式会社東北共立、株式会社ジャパンテクノアート、株式会社千代田ビデオ															
(就職指導内容) 担任と就職センターの専任スタッフが連携して、就職相談、各種書類作成支援、模擬面接、企業紹介等を行う。 また、本校独自の就職支援プログラムで「業界研究セミナー」「身だしなみ講座」「マナー講座」「エントリーシートの書き方講座」「面接対策講座」等を実施する。															
(主な学修成果（資格・検定等）) （令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報）															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>舞台機構調整技能士3級</td> <td>②</td> <td>14人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>サウンドレコーディング技術認定試験</td> <td>③</td> <td>11人</td> <td>11人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	舞台機構調整技能士3級	②	14人	6人	サウンドレコーディング技術認定試験	③	11人	11人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数												
舞台機構調整技能士3級	②	14人	6人												
サウンドレコーディング技術認定試験	③	11人	11人												
<b>【種別】</b> ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)															
(備考) (任意記載事項)															

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22 人	21 人	4.5 %
(中途退学の主な理由) 前年度の在籍なし。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任及び学生サポート室を中心としたフォローおよび学生相談、カウンセリング、メンタルヘルス講座を実施する。		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学 科 名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
総合情報ビジネス科	70,000	594,000	221,000	「その他」の欄に 計上した費用  1.施設設備費 2.教科書教材費 3.諸経費
モバイルアプリケーション科	70,000	660,000	261,000	
情報システム科	70,000	660,000	261,000	
A I システムエンジニア科	70,000	660,000	261,000	
ネットワークシステム科	70,000	660,000	261,000	
サイバーセキュリティ科	70,000	660,000	261,000	
A I テクノロジーエンジニア科	70,000	660,000	261,000	
高度 I T エンジニア科	70,000	660,000	261,000	
ゲームクリエイター科	70,000	660,000	251,000	
ゲームエンジニア科	70,000	660,000	251,000	
C G クリエーター科	70,000	672,000	256,000	
W e b クリエーター科	70,000	642,000	286,000	
デジタルデザイン科	70,000	642,000	286,000	
デジタルミュージック科	70,000	678,000	251,000	
映像放送科	70,000	684,000	261,000	
音響制作科	70,000	684,000	256,000	
建築科	70,000	636,000	286,000	
建築大工技能科	70,000	672,000	296,000	
インテリア科	70,000	624,000	296,000	
電気工事科	70,000	672,000	266,000	
機械 C A D 設計科	70,000	636,000	286,000	

修学支援 (任意記載事項)

下記修学支援は入学時のみ適用

**特別奨学金制度** 経済的理由で進学が困難と認められる者で、進学目的がはっきりしており、本校学生として相応しいと認められる者を書類選考により免除  
特別奨学生 A … 30 万円免除 (15 名程度)  
特別奨学生 B … 20 万円免除 (30 名程度)

**試験特待生制度** 試本校独自の学力試験の結果により免除  
試験特待生 A … 30 万円 (10 名程度)  
試験特待生 B … 20 万円 (15 名程度)  
試験特待生 C … 10 万円 (40 名程度)

**資格特待生制度** 入学時に本校基準資格を取得している者  
資格特待生 A … 30 万円  
資格特待生 B … 20 万円  
資格特待生 C … 10 万円

**親族入学制度** 入学希望者の両親、兄弟姉妹が東日本航空専門学校、東北電子専門学校、東北保健医療専門学校のいずれかの卒業生か在校生の場合、5 万円免除

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ・ホームページにて公表 <a href="https://www.jc-21.ac.jp/pdf/2019_evaluation_1.pdf">https://www.jc-21.ac.jp/pdf/2019_evaluation_1.pdf</a>		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制) 毎年実施している自己評価の評価結果について、客観性・透明性を高めるとともに、関係業界との連携協力による学校運営の改善を図るため、卒業生及び当該学科の専攻分野に関する業界関係者等を委員とする『学校関係者評価委員会』(定数14名)を設置し、学校関係者評価を行うものとする。 学校関係者評価委員会では、教育理念・目的、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の受け入れ募集、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献、国際交流の11項目について評価を行うとともに、その評価結果や今後の改善方策についてとりまとめる。 学校は、これを自己評価結果とともにその後の改善方策の検討において活用し、教育活動及びその他の学校運営の改善を年度内に行い、専修学校教育の目的に沿った質の保証・向上に資するものとする。  今年度開催する学校関係者評価委員会(評価年度:2018年度)は、8月に実施し、評価結果は9月中旬に公表する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社ミヤギテレビサービス	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	企業等委員
宮城県産業技術総合センター	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日(1年)	企業等委員
株式会社ヒノタマ	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
株式会社 サンパワー	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員
卒業生	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	卒業生
株式会社ヤマハミュージックリテイリング	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	企業等委員
株式会社アルゴグラフィックス	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	企業等委員
宮城県電気工事工業組合	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	業界団体
株式会社リード・サイン	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	企業等委員
リコージャパン株式会社	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	企業等委員
一般社団法人宮城県建築士事務所協会	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	業界団体
株式会社JC-21教育センター	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	企業等委員

東北芸術工科大学	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日(2年)	有識者
株式会社メンバーズ	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	企業等委員
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページにて公表 <a href="https://www.jc-21.ac.jp/pdf/2019_evaluation_2.pdf">https://www.jc-21.ac.jp/pdf/2019_evaluation_2.pdf</a></li> </ul>		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校基本情報 <a href="https://www.jc-21.ac.jp/">https://www.jc-21.ac.jp/</a></li> <li>・刊行物：入学案内 <a href="https://www.jc-21.ac.jp/mail/siryo.html">https://www.jc-21.ac.jp/mail/siryo.html</a> より資料請求 電話：022-224-6501 より資料請求</li> </ul>

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	東北電子専門学校
設置者名	学校法人 日本コンピュータ学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		0人	0人	0人
内 訳	第Ⅰ区分	0人	0人	
	第Ⅱ区分	0人	0人	
	第Ⅲ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				0人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----



(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、高等 専門学校（認定専攻科を含む。）及 び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了 できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が標準単位数 の5割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の5割以下)	人	0人	0人
出席率が5割以下その他 学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に 連続して該当	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑つて認定の効力を失つた者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、高等 専門学校（認定専攻科を含む。）及 び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。